

【2024 SyDE 自主企画研修 実施報告】 2024/9/12～2024/9/30

2024年9月、工学、環境科学、医学など異分野のメンバーからなる3名の研究チームが、Eco-DRRに関する自主プロジェクト研修を企画・実施した。近年、自然災害が多発しており、特にコミュニティが存在する住環境においては、調和がとれていない自然環境と住環境の関係が災害被害のリスクとなっている。Eco-DRRとは、生態系を有効に活用することで自然災害を予防・軽減する考え方であり、その手法である。多くの地域でEco-DRRの考え方が重視されるようになったが、多くの地域の生態系の活用はまだまだ改善が必要である。このプロジェクトでは、理論的研究、フィールドワーク、情報分析を通じて、生態系の防災機能、地域の生態系防災の現状を理論と現地調査から理解し、生態系保全と災害リスク軽減の関係を探ることで、地域の発展と生態系防災への貢献を目指す。

「仙台市南蒲浄化センター及び海岸公園地域」では、生態系に配慮した水質浄化処理が水質改善に大きな役割を果たすことを実感した。「震災遺構・仙台市立荒浜小学校及び深沼海水浴場」では、東日本大震災の被害と復興状況について理解を深めることができた。「名取市閑上地区の三つの地区」では、地形に基づく植生施工と防災の重要性を実感し、今後の生態系防災の事例と警鐘を鳴らすことができた。

工学的見地から生態系防災を考える場合、地域の地形を検討し、地域の実情に応じた防災施設を建設する必要がある。環境科学の観点からは、自然環境の発展法則に沿った地域の生態系防災建設が必要である。医学の観点からは、生態系防災は環境毒物学の関連要因を考慮する必要があり、特に水質浄化施設の建設において重要である。

全体として、今回のEco-DRRワークショップは、生態系防災の重要性と実際の事例について理解を深めるだけでなく、それぞれの専門性を生かして生態環境と防災建設に貢献する機会を与えてくれた。

羅子彬（工学研究科土木工学専攻・DC3）・SHEN JUNHAO（環境科学研究科先端環境創成学専攻・DC3）・YAO JIA（医学系研究科医科学専攻・DC3）



津波復興祈念資料館「閑上の記憶」の中で



震災遺構仙台市立荒浜小学校の屋根で